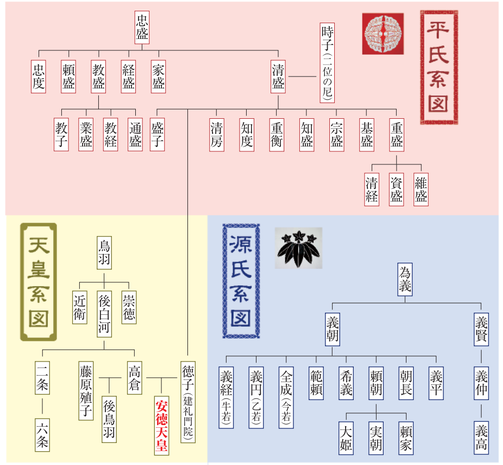
壇ノ浦の戦い（1185年）

治承4年（1180）に源頼朝が平家打倒の兵をあげた。
5年に渡る源平の戦いの最中、養和元年（1181）閏2月4日に平家の頭領、平清盛は病没した。源平の戦いは、寿永4年（1185）3月24日の壇ノ浦の戦いで終焉を迎える。義経の陣は満珠・干珠島に、対する知盛は門司の田野浦に船団を集めた。「吾妻鏡」によると、その数、平家は500、源氏は840余艘といわれる。彦島を本拠地とする知盛は、得意の海上戦で挽回を狙った。初戦は東流れの潮流に乗り、戦いを有利にしていたが、昼近く潮流が西に変わりはじめると接近戦となり、さらに義経が平家軍の水子・舵取りを射させて混乱させ、戦況は逆転した。
当初平家は御座船に見立てた擬装船を囮にする作戦をとったが露見、目標を定めた源氏が優勢になるにつれ、平家方から源氏へ裏切る者が相次いだ。平家きっての武将、平教経は、義経を討とうとして追いつめたが、俗にいう「八艘飛び」で味方の船に逃れ、果たせなかった。
敗戦を覚悟した二位の尼は、源氏が奪還を狙う三種の神器を身につけ、「海の底にも都があります」と8歳の安徳天皇を抱いて入水した。後を追った帝の母建礼門院は助けられて囚われの身となった。
勝敗がついたのは午後4時、知盛はじめ主だった武将は一門の最期を見届けると、次々に入水したが、平家の総帥、宗盛親子は捕虜となって戦いは終わった。関門海峡には、ただ、おびただしい平家の赤い旗印が漂うばかりであった。
栄華を極めた平清盛の一族は歴史上からその姿を消し、再び表舞台に立つことはなかった。

【源平合戦】

【平家・源氏・天皇主な人間関係】



「安徳天皇御尊影」赤間神宮所蔵

源氏・平氏　略年譜

一一一八年　平清盛誕生。
一一四七年　源頼朝誕生。
一一四九年　清盛、安芸守（安芸国の国司）に任命される。
一一五六年　後白河天皇に味方し「保元の乱」に勝利。
一一五九年　源義経誕生。「平治の乱」起こる。
一一六七年　頼朝、義経の父、源義朝らが挙兵、清盛に破れる。
一一六八年　清盛（五十歳）太政大臣となる。
一一七一年　平家全盛。高倉天皇即位。
一一七一年　清盛の娘徳子入内、高倉天皇の女御となる。
一一七八年　中宮徳子に清盛の孫になる皇子（安徳天皇）誕生。
一一七九年　清盛、後白河法皇を幽閉。
一一八〇年　安徳天皇即位。高倉宮以仁王の平家打倒の令旨。
一一八一年　頼朝挙兵、木曽義仲挙兵。
「石橋山の戦い」で頼朝を敗る。
「富士川の戦い」で源氏軍と対峙。
一一八一年　清盛、後白河法皇の幽閉をとく。
一一八二年　高倉上皇没。
一一八三年　後白河法皇が院政を再開。
清盛（六四歳）没。平家政権消滅。
「倶利伽羅峠の戦い」で義仲が平家軍を破る。平家、安徳天皇・三種の神器を奉じて西国へ都落ち。
後白河法皇、頼朝に東国支配院宣。
平家、大宰府に入る。
門司柳ヶ浦（大里）に仮御所を造る。
義仲、征夷大将軍に任じられる。
「宇治川の戦い」で義仲が敗れる。
義仲（三一歳）敗死。
一一八五年　「一の谷の戦い」で義経に敗北。
「屋島の戦い」で義経に敗北。
「壇ノ浦の戦い」で義経に敗北。
安徳天皇入水。
一一八六年　頼朝、義経暗殺を命ずる。
一一八九年　義経（三一歳）自害。
一一九二年　後白河法皇没（六六歳）。
一一九九年　頼朝征夷大将軍に任じられる。
一一九九年　頼朝（五三歳）没。

観どころ

下関 Shimonoseki Area

ベイ・エリアに広がる数々の楽しいスポットと街のあちこちに点在する洋館や史跡。新旧の魅力が詰まった唐戸地区。土塀や石畳が続く、緑の木陰に包まれた城下町長府。下関地区には風情のある見どころがたくさんある。

市立しものせき水族館「海響館」

唐戸市場

下関南部町郵便局 旧秋田商会ビル

城下町長府の古江古路

火の山からの夜景

ふく食解禁の地「下関」

門司港 Mojiko Area

古き良き時代を懐かしむ門司港レトロ。大正3年に建築され、鉄道駅舎として初めて国の重要無形文化財に指定された門司港駅をはじめ、明治から大正にかけての洋館やノスタルジックな街並み、美しい夜景など魅力いっぱい。清滝地区には日本の風情が香る街並みも残っている。

門司港駅

九州鉄道記念館

三宜楼（清滝地区）

大スクリーンで「古今関門海峡絵巻」上映中
関門海峡ミュージアム

門司港レトロ展望室からの夜景

門司港発祥焼きカレー

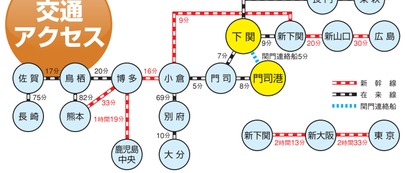
関門TOPPA!記念証

人道トンネルの下関側・門司側のエレベーターホール内に設置している記念スタンプを押印して下記進呈場所に提示すると、「関門TOPPA!記念証」がもらえます。

関門 TOPPA!記念証 進呈場所		
下　関	下関駅観光案内所	9:00～18:00
	新下関駅観光案内所	9:00～18:00
	カモンワーフ3F事務局	9:00～18:00
	長府観光会館	9:00～18:00
	観光情報発信ターミナル	9:00～18:00
門司港	旧門司三井倶楽部 ※令和4年度は工事中のため旧大阪商船で進呈します。	9:00～17:00

交通アクセス

＜公共交通機関＞



関門トンネル人道

下関と門司を結ぶ関門トンネルの人道は海峡を歩いて渡ることができます。
＜徒歩約15分＞
□料金／無料（自転車・原付20円）
□6時～22時

関門連絡船

下関の唐戸と門司港のマリンゲートもじを結ぶ連絡船です。
□料金／大人400円（片道）
小人200円（片道）
■関門汽船
TEL093-321-3081

レンタサイクル

潮風に吹かれながら門司港・下関を散策するなら自転車がもってこい。
■サイクルピット240海峡店
TEL083-250-8608
■JOYINT門司港レトロ
TEL093-321-2272

関門海峡観光推進協議会
■お問い合わせ
関門海峡観光推進協議会
〒750-0008 下関市南部町1-1（下関市観光政策課内）　TEL.083-231-1350
〒801-0853 北九州市門司区東港町6-72
門司港レトロ観光物産館2階（北九州市門司港レトロ課）　TEL.093-322-1188
関門海峡Navi http://www.kanmon.gr.jp/

令和4年3月発行

関門海峡・壇ノ浦合戦ゆかりの地

1 古に思いを馳せる旅 赤間神宮

あかまじんぐう

●下関市阿弥陀寺町4-1 ●交通／赤間神宮バス停

平清盛の孫である安徳天皇を祀る赤間神宮は、明治維新までは阿弥陀寺と称していた。有名な「耳なし芳一」の物語の舞台にもなっており、境内には平家一門の塚であるも盛塚や、芳一像を安置した芳一堂があり、宝物殿には重要文化財に指定されている「長門本平家物語」をはじめとした源平ゆかりの書物や絵図などが多数陳列公開されている。また、毎年5月3日には安徳天皇を弔い平家一門を偲ぶ「先帝祭」が盛大に開催されるほか、夜はライトアップにより、朱塗りの水天門が一層鮮やかに照らし出される。

赤間神宮のシンボルともいえる「水天門」は竜宮をイメージして造られた。"安徳天皇の玉体は水底に沈んだが、御霊は天上にあって"ところからこう呼ばれている。

先帝祭／上臈姿行

壇ノ浦合戦で生きながらえた平家の女官たちは遊女に身を落としながらも、毎年安徳天皇の命日には、身を清め参拝した。以来、連綿とこの行事は続き、今日にいたる。

安徳天皇阿弥陀寺陵

幼くして亡くなった安徳天皇のお墓で、中国地方唯一の御陵。引き上げられた二遺体は、伊崎町にある御旅所と呼ばれる地にひとまず安置されていた。

小泉八雲（ラフカディオ・パーン）の怪談で有名な「耳なし芳一」。七盛塚入口にあるお堂一堂には、最頂の慈慧法師「耳なし芳一」の像が奉られている。

七盛塚

平家一門の墓。壇ノ浦合戦で滅んだ平氏の大将・平知盛をはじめ平家一門の武将を祀っている。

2 古に思いを馳せる旅 海峡ゆめタワー

かいきょうゆめタワー

●下関市豊前田町3-3-1 ●交通／JR下関駅徒歩7分

「海峡ゆめタワー」の展望室は、日本有数の高さ（143m）を誇り、関門海峡はもちろん、対岸の九州や日本海側が一望可能。特に厳流島や壇之浦古戦場の絶好のビュースポット。「恋人の聖地」に認定され、「縁結び神社」や「恋みくじ」などが人気。また、夜のバリエーションに富んだライトアップも必見。

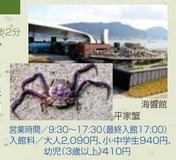
営業時間／9:30～21:30（最終入場21:00）
入場料／大人600円、子供300円

3 古に思いを馳せる旅 海響館

かいきょうかん

●下関市あるかぽーと6-1 ●交通／海響館前停徒歩2分

「海のいのち、海といのち」をメインコンセプトにした市立しものせき水族館「海響館」。ここにも壇ノ浦合戦の伝説が息づく生物が展示されている。「平家蟹」の甲の模様は怒った人の顔に見えることから、壇ノ浦合戦で敗れた平家軍の怨霊が乗り移ったものとも言われている。日本最大級のペンギン展示施設「ペンギン村」も大人気!


海響館

平家蟹

営業時間／9:30～17:30（最終入館17:00）
入館料／大人2,090円、小・中学生940円、幼児（3歳以上）410円

4 古に思いを馳せる旅 平家の一杯水

へいけのいっぱいみず

●下関市前田町1-1-1 ●交通／前田バス停徒歩4分

壇ノ浦合戦で肩と足に矢を受け、海に落ちた一人の平家武将が、命がけで岸にたどり着き、この場所でわずかな湧き水を見つけた。喉がカラカラに乾いていたその武将は、痛む体をひきずって近づき、水を飲んだ。武将にとっては命がけの水であった。夢中になって二口目を口にしたところ、真水が塩水に変わっていたという伝説が残されており、現在は島居が建てられている。

5 古に思いを馳せる旅 大歳神社

おおとしじんじゃ

●下関市竹崎町1-13-10 ●交通／JR下関駅徒歩3分

義経が壇ノ浦合戦に際して戦勝祈願した神を祀る。義経は有明山（当時｝R下関駅北側にあった）に富士の小松を植え、富士浅間の大歳神を祀り弓矢を神前に奉げた。のち、その弓矢を対岸の彦島にある平知盛の軍に射込んだために、驚いた平氏軍が壇之浦におびき出されたときいている。文治2年（1186）、山の麓の漁民がこの戦勝の神を祀り社に鎮めたと言われている。

義経は富士浅間の大神の神助を請い、富士の小松を植え、篝火を焚き、戦勝祈願した。

6 古に思いを馳せる旅 火の山

ひのやま

●下関市みもすそ川町7-14 ●交通／火の山ロープウェイバス停徒歩30分

源平最後の合戦となった壇之浦古戦場をはじめ関門海峡を一望することができる絶好のビュースポット。瀬戸内海国立公園の一角に位置する標高268mの小高い山で、夜景は1000万ドルの価値があると言われるほどの絶景である。

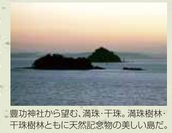
季節限定でロープウェイが運行されます。（片道／大人310円・子供150円）

7 古に思いを馳せる旅 満珠・干珠

まんじゅ・かんじゅ（豊功神社（とよこと）じんじゃ））

●下関市長府宮崎町4-14（豊功神社） ●交通／松原バス停徒歩8分

源氏軍は壇ノ浦合戦に際してこの島の周辺に兵を集結させたとされる。義経は壇ノ浦が水戦の初戦であり、水戦が苦手な東国の兵を率いていた。しかも、敵地で地理や水路が不案内であった。長府串崎は平家が陣を敷いた田野浦のちょうど対岸で、その地の船頭は名を得た屈強の者であった。義経は串崎の漁師たちから関門海峡の潮流の知識を得て、串崎船12隻を徴発し、自らこれに乗り込んだ。


豊功神社から望む、満珠・干珠。満珠樹林・干珠樹林ともに天然記念物の美しい島だ。

8 古に思いを馳せる旅 みもすそ川公園

みもすそがわこうえん

●下関市みもすそ川町1番（JR下関駅） ●交通／御裳川バス停前

寿永4年（1185）、源氏軍が大軍を率いて来襲、平家軍はこれを壇ノ浦で迎え撃った。公園前の海は関門海峡の一番狭まったところで「早鞆の瀬戸」と言われ、潮の流れが速く、潮流の変化が激しい海の難所。ここで源平最終合戦となる壇ノ浦合戦が繰り広げられた。壇之浦古戦場を一望できるみもすそ川公園には、『今ぞ知るみもすそ川の御ながれ波の下にもみやこありとは』という二位尼辞世の歌碑、「壇の浦古戦場址」碑など当時を偲ぶ石碑がある。

公園内には一般公募のデザインから選ばれた源義経像（左）と平知盛像（右）が設置されている。義経像の前には、大河ドラマで義経役を演じた滝沢秀明さんの手形も設置されている。

公園内で「歴史体感☆紙芝居」開催中。ほぼ1年を通して毎日、武者姿の読み手が下関で練りなげられた歴史などを題材に紙芝居を行います。10:00～15:00お客様が集まり次第上演

9 古に思いを馳せる旅 水天宮

すいてんぐう

●門司区大積 ●交通／大積東口バス停徒歩5分

壇ノ浦合戦で平教経の奥方（海御前）は敵将を切り捨てると安徳天皇の後を追い海に身を投げた。その遺体は大積の浜に漂着。里人は、浜の松の根元に手厚く葬り、水天宮として祀った。海御前はいつしかかっぱの総帥になったと言われ境内には海御前の墓やかっぱの石像がある。

海御前の墓

かっぱの石像

10 古に思いを馳せる旅 甲宗八幡宮

こうそうはちまんぐう

●門司区旧門司 ●交通／甲宗八幡宮前バス停徒歩1分

貞観2年（860）清和天皇が創建。神功皇后が三韓を征した時に着用したと言われる甲が御神体。50年に1度公開され、次回の公開は2058年。寿永4年（1185）源平の戦い後、範頼、義経兄弟は戦いで荒れた社殿を再建した。
また、「平知盛の墓」と伝えられる石塔があり、昭和28年の大水害の時に筆立山から流れて来たそうだ。

平知盛の墓

11 古に思いを馳せる旅 平山観音院

ひらやまかんのんん

●門司区伊川 ●交通／平原バス停徒歩25分

壇之浦に敗れた平家残党が、一族を弔うため回向堂を建立したのが平山観音院の起こりといわれている。この寺の境内には、「お乳水」と言われる岩清水がある。
平山観音院の近く、伊川の貴船社には、安徳帝を偲んだと思われる幼帝、二位の尼、平宗盛の僧が小さな祠に安置され、その姿は戸上神社の御神像とほぼ同じ。

平家の乳母が姫と乳に恵まれないよう子の為に祈りつつ自害した後湧き出たという「お乳水」

貴船社の三座像（非公開）

12 柳の御所（御所神社）

やなぎのごしょ（ごしょじんじゃ）

●門司区大里 ●交通／柳御所バス停徒歩1分

太宰府に落ちた平家は緒方三郎惟義の裏切りにあい、山鹿城（芦屋）を経て、大里に御所を定めた。時に寿永2年（1183）8月、去ったのは同年10月。
境内には都を偲んだ平時忠、経正、忠度の歌碑三基があり、とくに忠度の「都なる九重の内恋しくは柳の御所を立寄りてみよ」は御所の存在を明らかにしている。

この周辺には一族の邸もあったと伝えられている。

13 古に思いを馳せる旅 殿墓

とのばか

●門司区黒川 ●交通／八本田前バス停徒歩3分

黒川の八本田前バス停の奥、竹林の中に整然と並んだ18基の五輪の塔は、「殿墓」と呼ばれている。
寿永4年（1185）命を受けて宇佐八幡へ戦勝祈願に行った平休息は、その帰途平家の敗戦を知って山中へ潜んだ。追討がゆるんだところで、「八本田」と姓を変えて農業に従事、一方討死した一族の墓を集め、供養したのが殿墓である。

八本田という姓は、耕地に居を構え、八方に木を植え風を防いだところから。

14 古に思いを馳せる旅 風呂の井戸

ふろのいど

●門司区柳町 ●交通／高田二丁目バス停徒歩2分

平家の一行を追い続いた時、里人は安徳天皇をはじめ一行の疲れを癒すため、この泉の水を風呂の用水にしたといわれている。

御所の南西の方位にあった泉の水「玉水」を汲んで安徳幼帝の湯浴みに供したもの。

15 古に思いを馳せる旅 壇ノ浦合戦壁画

だんのうらかっせんへきが

●門司区和布刈 ●交通／和布刈公園前バス停徒歩約15分

和布刈公園内の第二展望台にある、高さ3m長さ44mの美しい有田焼の壁画。壇ノ浦合戦の模様が再現されており、義経、教経、二位の尼、安徳帝、建礼門院などが描かれている。和布刈神社は仲哀天皇9年（西暦200年）に創建。毎年旧暦元旦に行われる和布刈神事は有名。眼前は急潮流巻く早鞆の瀬戸。高浜虚子はこの潮流を見て"夏潮の今退く平家滅ぶ時も"と詠んだ。句碑は境内にある。

壁画は1,400枚の有田焼の陶板でできており、壇ノ浦合戦の様子を切っ先で語りかけている。

門司城跡。寿永3年（1184）平知盛は源氏との一戦に備えて古城山に門司城を築城しました。元和元年（1615）一国一城令で破却。

和布刈神社。新平家物語によると、合戦前夜、神宮橋魚屋による祝宴と神酒で戦勝を祈願し、平家一門の簡文を奉上したとある。

北九州市の姉妹都市、米国ノーフォーク市にちなんで名付けられたノーフォーク広場。関門海峡に面し、夕日が沈む時間はお勧め。

こぼれ話 海豚（イルカ）

壇之浦の戦いの最中、関門海峡にイルカの大群が現れる。安倍晴延という小博士（陰陽師）に尋ねれば、「イルカが源氏の舟の下を通れば源氏の敗け、反対ならば平家」と占った。イルカは平家の舟の下をくぐったという。

こぼれ話 平家塚

「平家塚」は平家落人の墓と伝えられているもので古い五輪塔6基のほかの墓石がある。また、ここは「平家やぶ」ともいわれ、かつては一歩でも入ると祟りがあるといわれていたが、現在は地元の方の手で供養されている。

こぼれ話 消えた宝刀

義経は海中に沈んだ剣を探すよう、海女の老松に命じた。海女が海に潜ると大蛇が現れ「この剣はもともと竜宮城の宝物。日本国には渡さない」とお腹に入れてしまった。その後も壇之浦には光り輝くものがあるとの噂が流れたという。

こぼれ話 五輪の塔

平安時代に創始され、多くが武士層によって造立。上から「空・風・火・水・地」を表し、宇宙の生成要素を説く仏教思想に基づいています。平家供養塔など小型の「一石五輪の塔」は西日本に多い。

こぼれ話 義経の八艘飛び

牛若丸として鞍馬山で過ごした義経は、天狗と共に修行したといわれるだけあって、壇之浦でも舟から舟へ飛び移った、八艘飛びは有名な話である。三種の神器を探すのに必死だった義経が敵を避けて飛び回っていたとの説もある。